

Round 3: THW never offer amnesty to heads of state in the midst of possible regime change.

文責：織戸未幸

### A. Ranking

1st: OG 2nd: OO 3rd: CG 4th: CO

### B. Discussion

Chair: 1. OG 2. OO 3. CO 4. CG

(COとCGは迷っている)

Panel A: 1. CO 2. OG 3. OO 4. CG

Panel B: 1. OG 2. OO 3. CG 4. CO

#### a. COの評価

Panel AがCOを一位にした理由：

他のチームがThe heads of stateに恩赦を与えるべきかについてしか話していなかった中で、モーションの後半 ( in the midst of possible regime change ) のユニークネスを出し貢献したこととOpp Whipの反論とまとめ方がよくラウンドに貢献していた点からCOを評価した。

ChairがCOを3位という低い評価にした理由：

確かにモーションにユニークな話をしたところは評価できるが、議論の内容、質に問題がある。まずなぜ結果を正義より重要視すべきかについての一つ目のイクステンションについてはOGが話していた議論との差が見出せなかった。また二つ目のin the midst of possible regime changeのユニークネスについてのイクステンションは、他の独裁者からの助けを得ようとする、ethnic tensionなど現実味が薄い議論やアナーキー ( リーダーがいなくなる ) という分析はこの政策を取った後も変化が見られないように感じ、議論の説得性に欠けた。独裁者がこの政策をとった後に何も失うものがなくなり ( nothing to lose )、より武力行使をするという分析があったが、そもそもMOの段階で理解しにくく、たとえ理解できてもその一つの分析のみを新しいイクステンションとして評価することはできないと思った。

Panel BがCOの評価を下げた理由：

Chairの理由とマク口では被る部分が多いが、特にそのnothing to lose の議論でfight against Westの部分などわかりにくいところが多く、またamnestyとのつながりが見えず説得的ではなかった。また最初のイクステンションはOOの焼き増しに近く、amnestyがoptionに残しておくべきと言っているが理由とリンクが不足していた。最後にOpp Whipについてだが、確かに反論はよかったがMOの反論が弱かった分、遅すぎると感じる反論が多く考慮に入れにくい。特に自分たちのイクステンションをほとんど押していないのがrole fulfillmentの観点からマイナスであると考える。

結論：COについて

モーションにユニークな話はしているものの、エクステンションの評価が低く、Opp Whipの役割がイクステンションを押ししていないため果たし切れていないと判断したため、COの評価を下げた。

#### b. COとCGとの比較

Chair がCO>CGにした理由：

Opp Whipの評価が低いという話が出たが、イクステンションをほとんど押しはなかったものの、反論の質やまとめ方から評価できると感じイクステンションが同じくらい評価しにくいCGより高い評価を与えた。

Panel BがCO<CGにした理由：

CGの二つ目のイクステンションであるICCのcredibilityが増えるという議論を評価するかはロジックが不足していて疑問だが、ある程度重いpunishmentを与えることで抑止になるという一つ目のイクステンションがCOより評価できる。またWhipについて、Gov whipは反論でOpp whipよりは劣っているものしっかりと自分たちのイクステンションを押ししていたため、whipでの差よりイクステンションの差でCGが上であると評価した。

結論：CG>CO

Whipの差はあまりないが、よりロジックがあって説得的であり、新しいイクステンションを出したCGをより評価する。

#### c. OOとCGとの比較

Panel B OGとOOのプラクティカルでの差について：

OGのDPMから出ていたjusticeがないが故に被害者がantipathyを持ち戦い続けるなどの議論はDLOからそもそも独裁者を捕まえて裁判にもっていけるのかという反論は出ていたものの、opening halfの比較の中ではその反論は遅くある程度残っているが、LOから出ていたamnestyがないと紛争が長引くという議論も反論がなく残っているため差がつけにくい。

Panel A フィロソフィーの比較について：

DLOから出ていたjustice vs outcome(amnestyがあれば独裁者が戦争をやめて死者が増えずに済む)という対立でどちらを優先するかというフィロソフィーを見てみると、outcomeが完全にプラクティカルに依存していて、OGのモデル上ではDPMから出ていた被害者がantipathyを持ち戦い続けるという議論がある限り、outcomeでは差がつきにくい。そのため、OGとOOのどちらのモデルでもプラクティカルのハームとベネフィット(どちらのモ

デルでも紛争が続く )があるなら、OGがフィロソフィーであるjusticeがある方がいいと思う。つまり、フィロソフィーではOGの方が優勢であると考ええる。

結論： OG>OO

プラクティカルでは差がないが、フィロソフィーではjusticeをもたらすことができるOGの方が優勢

d. OOとCGとの比較

Panel B: 明らかに差があると思うが、まず議論の質に関してOOの方がよく説明されメカニズムもしっかり残っていた。またCGはOOに対して反論することができたにもかかわらず、していないためOOのほうが優勢である。

結論： OO>CG

C. Speakers' Score

PM 76/DPM 78, LO 76/DLO 77, MG 76/GW 75, MO 74/OW 76

反論に甘い部分があったがフィロソフィーとプラクティカルで例もロジックもよく出して議論を深めていたDPMをこのラウンドのBest Speakerにし、イクステンションの説明が少なく反論が弱かったMOを一番低くした。

またジャッジの中でコンセンサスのとれたチームでの差を表すために、あまり差のないOGとOO、CGとCOをマージン1にして、差のあったOOとCGをマージン2にした。

\*このDiscussionはあくまで一例です。